

仙台復興住民とともに 専門家らが討論会

浦和区

手で30年かけて植えて育つ「ふのぞ」の杜、再生プロジェクトを絶つ。「復興活動を通して、世外の子とつながり、復興の教訓と復興の記憶を伝えていきたい」と語った。

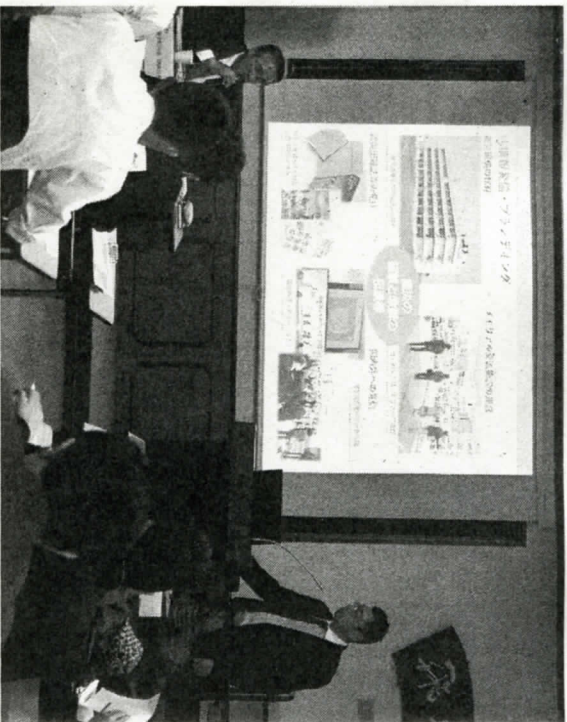
パルティスカッシュに、浦和高校の生徒も参加。は、浦和高校の生徒も参加。

支援内容が異なる住民にも不安を解消するため、地元自治会や市、コナラルファーストの3者は震災直後から密接に連携。仙台平野の原風景「居久根」などの田園文化を受け継ぎながら新しい田舎づくりを目指す復興プロジェクトを、津波被害で失われた海岸地域の緑化事業など、仙台の画では、南蒲生地区全290世帯のうち30世帯が災害危険区域に指定され、現地で再建と

東日本大震災の経験・教訓の共有と、復興の取り組みについて考えるパルティスカッシュ「震災から9年―仙台市の復興とまちの再生」(県高等学校社会科研究会地理部会主催)が14日、さいたま市浦和区の県立浦和高校で行われた。仙台市内の復興活動に携わる3人の専門家、まち再生の現状や今後の課題を解説。県内高校の社会科教師ら約30人が耳を傾けた。(中野春夫)

東日本大震災 9年

2011年3月11日、仙台東部の農村集落、仙台市宮城



仙台市内の復興の取り組みについて考えるパルティスカッシュセッション＝さいたま市浦和区の県立浦和高校

会復興部の部長を務めていた若貴正志さん(70)は「これまで

順調にまち再生が進められて

いるが、仙台市と都市再生

イニシアチブの協力のなか

で「コナラルファーストと都市

再生イニシアチブ」で約7年

間、地域の復興をサポートし

た岡井健さん(41)は「復興の

学校はあつて、地域の方々。

これからは、まちづくりの責

任、各地区的なまちづくりの責

任、各地区的なまちづくりの責

任、各地区的なまちづくりの責